

平成 29 年度事業報告

平成 29 年度は定款 4 条に定められた事業を下記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業（演劇の関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成）、普及事業（半額観劇会、学生対象の演劇教室）及び調査事業等の公的事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしました。

I 助成事業

（1）演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、委員会の答申を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の 4 氏が承認されました。表彰式は平成 30 年 2 月 27 日（火）午後 2 時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

（受賞者と授賞理由）

① 沢田 祐二 殿

舞台照明家として常に時代の先端を歩み続け、優れた成果をあげてこられました。劇団四季における数多くの公演を足がかりに多方面で活躍され、文学座、劇団 N L T、二期会、新国立劇場におけるオペラ・バレエ公演、近年では歌舞伎に取り組むなど数限りない舞台照明の創造を続け、現在でも第一線の舞台照明家として活躍しておられます。

また、後進の育成にも尽力され、貴殿の下で照明を学ばれた多くの方が、様々な舞台で照明家として飛躍されております。

我が国の舞台芸術の発展に対する多大なる貢献と、これまでの功績を称え推薦するものです。

② 大澤 金久 殿

昭和 30 年以來、床山一筋に、歌舞伎から舞踊、現代劇まで様々なジャンルで舞台芸術を支えてこられました。

中でも、豊富な経験に裏打ちされた貴殿の技術は新派劇に欠かせないものとなっており、特有の鬘文化を途絶えさせず、製作から結い上げまでを担われ、俳優の機微を汲みながら、時代の風情溢れる人物造形に大きく寄与されました。近年は、自身が培われた床山技術を引き継ぐため後進の育成に努められ、技術の継承に貢献されていることを高く評価するところであります。

ここにその功績を讃え、今後より一層の活躍を願って推薦するものです。

③ 宮崎 紀夫 殿

昭和38年に東宝演劇部に入社され、以来半世紀以上に亘り、主にミュージカルの製作現場で活躍してこられました。

日本のミュージカル文化の幕開きである東京宝塚劇場「マイ・フェア・レディ」を始めとして、「サウンド・オブ・ミュージック」「王様と私」などの数多くの名作の日本初演の演出スタッフを勤められた後は、プロデューサーとして「ラ・マンチャの男」「屋根の上のヴァイオリン弾き」「ラ・カージュ・オ・フオール」「ジキル・アンド・ハイド」等の作品を手掛けられ成功に導き、それぞれは今なお演じ継がれて、この演劇界で大きな輝きを放っています。

いつも変わることなく、ただひたむきに演劇製作に携わるその真摯な姿勢は、後進たちの学ぶべき手本でもあります。

ここにこれまでの功績を讃え、今後一層の活躍を願って推薦するものです。

④ 藤沢 文翁 殿

ロンドン大学ゴールドスミス演劇学部を卒業後、2005年ロンドンで劇作家・演出家としてのキャリアをスタートされました。

帰国後は、オリジナルに拘ったストーリーと生演奏の音楽に、オペラ、ミュージカル、日本固有の落語や常磐津、声優文化の要素を加えた「藤沢朗読劇」と呼ばれる独自の音楽朗読劇を多数上演。従来の朗読劇の概念を打ち破る独特の魅力で大きな支持を得ています。

2016年、シアタークリエにてクリエ プレミア音楽朗読劇「VOICARION（ヴォイサリオン）」シリーズを立ち上げ「女王がいた客室」「Mr.Prisoner」2作を上演、高い舞台成果が評価され、2017年も VOICARION II 「GHOST CLUB」を上演し、大きな成功を収めています。

ここにこれまでの功績を讃え、今後一層の活躍を願って推薦するものです。

(2) 海外研修への助成

本年度の海外研修は、昨年に引き続き研修志望者を募り、各自が日程・行動を自由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金（上限1名10万円）を助成いたしました。

本年はニューヨークに15名、ロンドンに3名の計18名が参加いたしました。今年度で27回目となり、研修参加者の延べ人数は526名となりました。

(3) 新人脚本家養成のための助成

今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初心者コース」5名、「中級コース」13名、「マスターコース」8名の計26名が受講いたしました。

通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を1回実施いたしました。

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

II. 普及事業

(1) 半額観劇会

東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益財団法人 名古屋市文化振興事業団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟10劇場と1社の協力を得て、東京地区4回、大阪地区6回、名古屋地区3回、福岡地区7回の合計20回実施いたしました。

東京地区	32,229 人	209,316,500 円
大阪地区	45,613 人	226,269,750 円
名古屋地区	5,891 人	34,253,800 円
福岡地区	13,790 人	101,148,000 円
合計	97,523 人	570,988,050 円

なお、平成29年4月、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。

「学生のためのミュージカル教室」を、平成29年8月に博多座（参加者130名）にて行いました。

「学生のための歌舞伎教室」を、平成30年2月に博多座（参加者100名）にて行いました。

(3) 高校生劇評グランプリへの協賛

平成 25 年度より、公益社団法人国際演劇協会日本センター主催の「高校生劇評グランプリ」に協賛し、高校生の演劇への関心を高める一助となっております。

Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報 52 号、53 号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

Ⅳ. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 53 劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 17 の準会員劇場の主要事項を内容としている「Box Office Data Report 2015」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。

また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加盟劇場と情報を共有いたしました。

報告事項

1. 一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。
2. 委員の異動
平成 29 年 7 月 歌舞伎座支配人・吉浦高志氏就任、船越直人氏退任。
3. 委員会の開催
協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するために、平成 29 年度は 6 月、9 月、11 月、2 月の 4 回開催いたしました。

以 上